

科学研究費助成事業(基盤研究(S))公表用資料
〔平成31年度(2019年度)研究進捗評価用〕

平成28年度採択分
平成31年3月25日現在

人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究
Integrated Research into the Processes and Mechanisms
of Racialization

課題番号：16H06320

竹沢 泰子 (Takezawa, Yasuko)

京都大学・人文科学研究所・教授



研究の概要（4行以内）

欧米における人種研究には膨大な蓄積があるが、それらは概して、欧米の国内外植民地経験に基づいている。本研究は、そうした環大西洋中心のパラダイムから脱却するために、日本・アジアの事例と欧米や他地域の事例とを接合させることにより、「人種化」“racialization”のプロセスとメカニズムを明らかにすることを目的とする。

研究分野：文化人類学・民俗学

キーワード：人種・エスニシティ・差別・遺伝子・環太平洋

1. 研究開始当初の背景

人種研究には膨大な蓄積があるが、奴隷制や先住民支配等の環大西洋地域における経験を基盤としており、「人種は近代ヨーロッパが構築したもの」とする見方が定説となっている。しかし、日本やアジアにおける人種化は、そのような皮膚の色など可視的な身体形質を指標とする単純な構図には収まらない。本研究は、従来の欧米中心的な人種理論のパラダイムから脱却するために、日本・アジアの事例と欧米や他地域の事例とを接合させ、新しいパラダイムを構築することを目指す。

2. 研究の目的

本研究は既存の人種研究とは一線を画し、身体的差異には不可視ながら歴史的に差別を受けてきた人々の経験も積極的に含めて、政治・経済・法制度による自己・他者の差異化によって人種化が生じるプロセスとメカニズムを明らかにする。

3. 研究の方法

代表者は、国際共同研究のための理論的枠組み・研究方法・研究計画を提示し、その上で、代表者・分担者を中心に班ごと（歴史班、社会班、科学班）に基本文献の購読や、理論的枠組みに沿って事例研究を行う。学際的な研究のためそれぞれ研究方法が異なるが、資料収集、フィールドワーク・インタビュー、実験が中心的な方法となる。

共同研究に関しては、頻繁な研究会・セミナーの開催により、異分野専門家間相互の円滑なコミュニケーションをはかり、そこから新しい着想がえられるようにする。

4. これまでの成果

本研究は、代表者の個人研究と代表者が主宰する共同研究から構成されており、全体で10プロジェクトを遂行している。2016年度に計11回、2017年度に23回、2018年度に17回の公開セミナー・研究会等を行った。このうち、2016年度2017年度には、シリーズ『人種神話を解体する』（全3巻、竹沢泰子編集責任、共編）の執筆陣による出版記念連続セミナーや合評会（計12回）、*Trans-Pacific Japanese American Studies* の執筆陣によるアジア系アメリカ研究学会（米国）での部会企画や公開座談会を開催し、その後の共同研究につなぐ課題について検討した。

人種主義・反人種主義の越境・転換に関する日仏共同研究（国立社会科学高等研究院 EHESS の Tepsis と人文科学研究所本科学研究費）は、すでにパリと京都で研究会を主宰しており、2019年5月に東京で国際シンポジウムを企画している。2019年秋、代表者竹沢とフレデリック・ショブの共編による雑誌特集号が、*Politika* (EHESS) と『人文学報』（京大人文研）が今秋刊行される。さらに論文集として京都大学学術出版会か

ら2020年に竹沢・ショブの共編として出版する予定である。

環太平洋日系ディアスポラ・アートをテーマに開催した国際シンポジウムでは、日米伯の計7名の女性研究者が講演し、5名がコメンテーターとして登壇した。その成果は、*Amerasia Journal* (UCLA 出版)の2019年12月に特集Forumとして掲載されることが決定している (Takezawa and Kina eds.)。

また国内研究者を中心として行ってきた共同研究の成果は、『環太平洋地域の移動と人種—統治から管理へ、遭遇から連帯へ』(竹沢と田辺明生・成田龍一の共編)として京都大学学術出版会から2019年秋刊行予定である。

文化人類学、法倫理学、科学技術論、遺伝学等の専門家らと行っている国際共同研究では、日・英・中の3言語圏における遺伝子検査ビジネスをめぐる製造販売会社や使用者の言説分析を統計的に分析し、3言語圏の共通性とそれぞれの特性を把握することができた。現在国際共著論文を執筆中である。

人種化の可視性と不可視性をめぐるアメリカ、インド、アイスランド、南アフリカ、日本の研究者による国際共同研究の成果は、ワシントンDCで2017年に開催された米国人類学会で、21世紀を見据えた新たな人種主義について代表者がフェイ・ハリソン氏とパネルを共同企画した。その成果は、現在原稿を集めつつあり、2019年秋に出版社に原稿を提出する予定である。

欧米中心的な奴隷制経験を重視した従来の理論を批判し、日本とイギリスの経験をもとにミックスレイスの新たな理論を提示する共同研究については、*Global Mixed Race*の第一編者であるStephen Small氏と国際共著論文を執筆しており、間もなく雑誌に投稿予定である (他の出版は省略)。

海外の学会での部会企画や国内での公開セミナーにも力を注いできた。これまでに代表者が第一オーガナイザーとなり、アメリカ人類学会、アジア系アメリカ研究学会、アメリカ社会学会で部会を企画した。2018年には、日本学術会議自然人類学分科会と共催したサイエンスカフェを沖縄の大手書店で行い、地元住民参加者との意見交換を行った。また上記以外に、海外から3名の研究者を招いて公開シンポジウムを開催し、社会的不平等、性差、国境や地域を超えた多角的な視点から人種主義と人種化のプロセスについて活発な議論を行った。

5. 今後の計画

今後は、これまでの個人研究や共同研究の成果を学術書や学術雑誌論文として掲載することに力を注ぐ。日仏共同研究については、上記の東京で開催予定のシンポジウ

ムのほか、学術書刊行後には、パリでシンポジウムを共同開催する予定である。

また遺伝子検査ビジネスの国際比較の成果も、2本の論文出版を計画しており、その成果は、国内では公開シンポジウムを開催して、還元する予定である。

これらの多くのプロジェクトにおいて、研究から、出版、社会還元へと比重を徐々に移したいと考えている。

6. これまでの発表論文等 (受賞等も含む) 【論文】

1. 竹沢泰子「「人種」をめぐる科学知の受容と変容—明治・大正時代の教科書から」(フランス語に翻訳)ジャン＝フレデリック・ショブ、竹沢泰子共編“Circulations et métamorphoses du racisme et de l'antiracisme”を *Politika* 特集号 (EHESS) として2019年秋刊行予定 (査読有り)。
2. 竹沢泰子「越境するモノが問いかける「トランスパシフィック」という空間—ジーン・シンと井上葉子の芸術作品から」『環太平洋地域の移動と人種—統治から管理へ、遭遇から連帯へ』(竹沢泰子・田辺明生・成田龍一共編、順未定) 京都大学学術出版会、2019年秋刊行予定 (査読無し)。
3. Takezawa, Yasuko and Laura Kina, “Trans-Pacific Japanese Diaspora Art: Encounters and Envisions of Minor-Transnationalism,” *Amerasia Journal* (UCLA), December 2019 (査読有り)。
4. Takezawa, Yasuko, “Antiracist Knowledge Production: Bridging Subdisciplines and Regions,” *American Anthropologist*, 119 (3), pp.538-540, 2017 (査読有り)。
5. Takezawa, Yasuko, “Rethinking ‘Race’ from Asian Perspectives,” *Ethnicity as a Political Resource*, Transcript Verlag (Bielefeld, Germany), pp.75-84. 2016. (査読有り)。
6. 斉藤綾子・竹沢泰子編『人種神話を解体する1—可視性と不可視性のはざままで』東京大学出版会、2016年 (査読無し)。
7. 坂野徹・竹沢泰子編『人種神話を解体する2—科学と社会の知』東京大学出版会、2016年 (査読無し)。
8. 川島浩平・竹沢泰子編『人種神話を解体する3—「血」の政治学を越えて』東京大学出版会、2016年 (査読無し)。

7. ホームページ等

人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究：<https://race.zinbun.kyoto-u.ac.jp>
竹沢泰子研究室：
<http://takezawa.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>